

悠遠の男女共同参画 - 苦悩する心臓血管外科医

大分大学心臓血管外科

宮本伸二

心臓血管外科は急患も多く間違いなく現在でもブラック診療科である。医師全体の数の増加に伴い心臓血管外科医も増えているが手術症例数も同じ割合で増加しているため依然ブラック状態は変わらない。そのためもあって15年で女性心臓血管外科医は5倍以上に増えているものの女性医師の割合は6%と外科の中でも依然低い。忙しさに影響する因子として医師自身は手術による負荷は問題としておらず、手術以外の特に術後管理に要する時間を負担と考えているため学会はICU術後管理のタスクシフティングを推進している。学会活動に関する男女参画は外科学全体でまだすすんでおらず2020年の時点で女性評議員は徐々に増加傾向にあるものの女性理事が存在するのは日本外科学会のみであり、心臓血管外科学会も含めて関連学会には未だいない。女性医師の就業率低下に対して学会が直接できることはほとんどなく病院、上司の意識改革を啓蒙するしかない。私は血管外科学会ダイバーシティ委員会委員長として女性医師間のネットワークづくりを目指している。密度の少ない女性心臓血管外科医どうしを出合わせる機会を学会主導で設けることで情報共有、ストレス軽減につながるのではないかと期待している。女性医師数が増加することで女性医師をもつ男性医師が増えてくる。女性医師が少ない心臓血管外科においてマイナーな女性医師をサポートする以外にも女性医師もしくは働く妻を持つ男性医師への配慮が今後より必要となってくる。結婚、出産、子育ては医師としてもっとも忙しく、大切な時期とも重なり個々のキャリアアップと家庭の維持を上司として一緒に考えていかななくてはならない。考えれば考えるほど胃が痛くなるが致し方ない。

男女参画を推進するには制度、意識改革に加え、生殖医療、ロボット(AI)技術、ICTなど科学技術開発・導入が今後有力だと考えられる。大分県ではコミュニケーションアプリJOINの導入を進めている。これはLINEと同様のチャット機能とCT等のDICOM画像を施設間で共有できるというもので、スマートフォンがあればどこでも情報共有できる。情報セキュリティ機能に優れ医療用に開発・認可されている。これを用いて診療科内、多職種との情報共有を行うと情報伝達時間が短縮され、実際に人間が移動することなく的確な判断、指示が行われるため登院回数も減らすことができる。このようなICTの積極的な利用が働き方改革には不可欠であり、男女共同参画推進にもつながっていくものと考えている。